

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かれ合い

No.64

共に生きる

発行／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10／瀬下幸弘 FAX093-622-1290

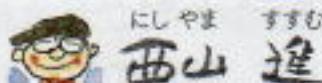
きさらぎ
如月
2016

沖縄県

宜野湾市長選挙結果は
辺野古新基地容認ではない

自公応援の佐喜眞氏(現職)再選
結果は真摯に受けとめねばなりません。しかし、沖縄タイムスなどが投票を終えた有権者の出口調査で宜野古へ「移設」することの信頼性は普天間基地の固定化と市民への重圧は「絶対あつてはならないことです。

日本漫画家協会
日本漫画家会議



アジアの人たちが見てるよ

平和憲法改憲、にノーを

アベ政治
許さず

■常軌を逸した姿勢

「国のかたちを決める憲法改正。國民から負託を受けた、私たち國會議員は、正々堂々と議論し、逃げる」となく答えを出していく。施政方針演説の最後に安倍首相はこう結びました。改憲発言です。では、現憲法のどの部分をどのように変えるというのでしょうか。1月21日の参院決算委員会で安倍首相は「いよいよ、どの条項を改正するかとの新たな現実的な段階に移ってきた」と述べています。これは本末転倒です。改憲発言をしておきながら中身が示されないのは何か隠されているものを感じます。國民の知る権利を制限した特定秘密保護法、安倍政治に批判的な報道への介入、立憲主義を平然と踏みにじた『戦争法』強行採決で憲法9条の骨抜き、そして中国や北朝鮮の軍事的脅威を煽り、國民の意識を改憲へと導こうとしているかのようです。本来なら、平和憲法のもとで、國民の命がどれほど守られてきたのかを時の政権が示さねばならないはずです。いま右翼的な方面から「緊急事態(大規模自然災害の発生等)条項さえない現行憲法では國民の命を守り通すことは困難」として改憲をせまる声がありますが、東北弁護士連合会会長声明で「日本の災害法制は既に十分に整備されている。國家緊急権は災害対策を理由としてもその必要性を見出だすことはできない」ことが1月27日の国会で明らかになりました。安倍政治を許さず、平和憲法『改憲』にノーの声を広げていきましょう。

安倍首相が施政方針演説で
憲法改正について発言

1月22日
第百九回国会

2月の講演・集会案内

- ◆2月5日(金)戦争法廃止署名行動(黒崎駅)…18時
- ◆2月6日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時
・原発なくそうフェスティバル(福岡国際会場)…12時30分
- ◆2月11日(木)思想信教の自由を守る集会
小倉北区西南KCC(弁当持参)…10時30分～15時
- ◆2月13日(土)講演「安保法制=戦争法廃止への展望」
小倉北区市立生涯学習センター3階 500円 …14時
- ◆2月19日(金)戦争法廃止行動(リバーウォーク)…18時
- ◆2月27日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC)…14時

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

第13条 どこにでも住める

わたしたちはみな、いまいる國のどこへでも行けるし、どこにでも住めます。別の國にも行けるし、また自分の國にもどることも自由であります。

2月14日(日):イチイチ祈りの会

カトリック
場所は黒崎教会小聖堂、ミサ後～
どなたでもお出でください。

沖縄・辺野古レポート

(その1)

(元中学校教員 池村好順)

去年の11月27日、私は沖縄・辺野古を訪問することができました。今は妻も一緒に、私自身二度目になります。その時のことを皆さんにお知らせしながら、「沖縄のこと」をご一緒に考えたいなと思っています。

レンタカーを借り那覇から沖縄自動車道で辺野古を目指しました。高速を降りてからは、国道329号を東方面に向かって進みます。しばらくすると左手に海が見えてきました。大浦湾です。米軍基地キャンプ・シュワブに近づいてきているのがわかります。所々に金網のフェンス! 更に329号を下って行くと道路は広くなり視野が広がります。道路に沿って真っ直ぐに高い金網のフェンスが続き、国道の海側に米軍基地のゲートが見えてきました。キャンプ・シュワブです。ゲートの出入り口付近には日本人のガードマンが3~4人警備しています。そして、道路を挟んだ反対側30~40メートルに辺野古の「テント村」が並び、ドキュメンタリー映画「戦場ぬ止み」に描かれた場面と重なります。テント村の道路側に座り、通り過ぎる車に手作りのプラカードを掲げる人もいます。私もクラクションを鳴らしました。共感の意志表示です。

辺野古新基地反対「テント村」に到着した頃はすでに12時少し前。辺野古「テント村」は、前回訪問した時と同じ「のどかな感じ」でした。

今回は夫婦ふたりでまったくの「個人」での辺野古訪問。誰に面会する予定もないのに、なんとなく戸惑ってしまいました。テント村の左端から進んでテント中央を通り過ぎ、テント村の人々の



視線を感じつつ反対側の先端まで行き着きました。そこで夫婦ふたり、しばらくたたずんでいました。

ところが間もなく、ある緊迫した場面を目撃することになりました。「テント村」から一人の女性が道路を渡り、基地フェンスに近づいていきました。しばらくすると、基地内のサングラスをかけた若い機動隊員が大きな身振りでその女性にしきりと何か言い始めました。口論が始まりました。終わる様子がありません。若い機動隊員の後方にいたもう二人がビデオカメラを撮影しながら近づいて来ます。すぐにテント村から大柄な男性が駆けつけました。そして、前面の若い機動隊員に猛烈に抗議を始めました。そして、ゲート出入り口前に移動し激しい言い合いが続きました。テント村から2~3人男性がやってきて大声で抗議します。その抗議は止まりません。その状態が長く続けば問題が大きくなり逮捕者がでるかとも心配しましたが、女性が間に入って止めたこともあります。しばらくして機動隊員が基地内に戻っていました。



ご紹介

在日コリアンの歴史と思いを伝える
ペ・トンノクさん(語り部)から

1世の唸り声・生き様を聞く

身世打鈴 (シンセタリヨン)

歌のような調子に合わせて語られる辛い身の上話、シンセタリヨン。

2016年2月6日(土)15時~17時

鞍手町鞍手中央公民館2階第1研究室・無料
連絡先:090-8399-1363(くりたなおき)まで

偶然に目撃した場面でしたが、沖縄辺野古の緊迫した現状、辺野古新基地建設反対の「テント村」の人々の「臨戦状態」を強烈に目撃することになりました。今、沖縄で何が起こっているのか、そして、沖縄の「辺野古」が示す問題とは何か少しでも多くの方と共有出来ればと思います。

なぜ口論になったのか、その女性が語ってくれました。…(次回)

原告1万人記念 原発なくそうフェスティバル

とき／2016年2月6日(土)
AM12:30～PM4:00

ところ／福岡国際会場
福岡市博多区石城町2-1
地下鉄：呉服町駅より徒歩12分

■トークゲスト(城南信用金庫 前理事長)

吉原 肇さん

賛同金で
開催

■ライブゲスト(ソウル・フラー・ユニオン)

中川 敬さん

講演・交流

安保法制＝戦争法 廃止への展望

とき／2016年2月13日(土)
PM2:30～PM4:30

ところ／北九州市立生涯学習センター3F
北九州市小倉北区大門1-2-3 小倉北警察署隣

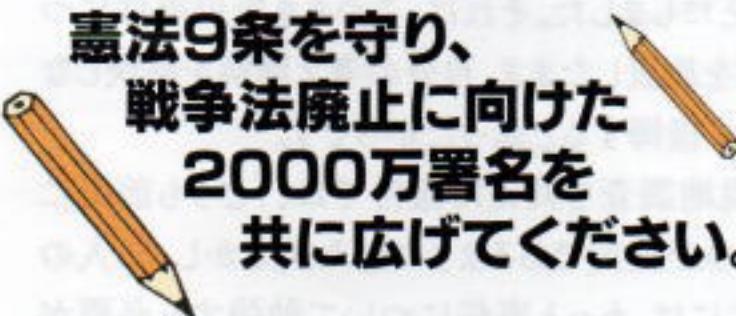
■講師 名古屋大学名誉教授

森 英樹さん 資料代 500円

2月からの学び& 交流の場 案内

ふるって
ご参加を

憲法9条を守り、
戦争法廃止に向けた
2000万署名を
共に広げてください。



第21回 崔昌華記念 北九州人権集会

十字架のある風景

とき／2016年2月7日(日)
PM3:00～PM5:30

ところ／西南KCC(在日大韓小倉教会)
小倉北区大田町14-31 駐車場有り。

■講師 ピアニスト。恵泉文学院大学非常勤講師。

崔 善愛さん 席上カンバ有り

思想・信教の自由を守る2・11集会

いま崩れゆく平和…希望を求めて
～建国記念の日とは・ヘイトスピーチ・日米安保と辺野古～

とき／2016年2月11日(木)
AM10:30～PM3:00 弁当持参

ところ／西南KCC(西南韓国基督教会会館)
小倉北区大田町14-31 駐車場有り。

■川本良明(教団・小倉日明教会牧師)

“建国記念の日”的由来

■金 貞子(在日大韓小倉教會長老・西南KCC理事長)

“ヘイトスピーチ 共生の天幕をひろげよう!”

■瀬下幸弘(カトリック20条の会)

“日米安保と辺野古問題”

さよなら原発 3.13北九州集会

とき／2016年3月13日(日)
AM11:00～PM2:30

ところ／北九州市小倉北区勝山公園 小倉北区域内
PM2:30からデモ行進

チェルノブイリから30年、フクシマから5年

《アムネスティ》下関通信 (2016/2)

嗚咽しながら、「慰安婦」被害者の李容珠さん(88才)は「日韓合意」は決して認められない、寒空に裸足で立っている“少女像”に靴を履かせにゆく」と語っています。外相に代弁させる謝罪はあっても、辛酸をなめた具体的な加害の傷には一言も触れず“最終的解決”が宣言されたのでした。最高齢の彼女たちが口々に「死ぬまで闘う」と。

12/28の「慰安婦問題日韓合意」以後、年末年始は夥しい数の批判的「声明文」「論評」が発表されました。挺対協初め、韓国アムネスティ、東アジアアムネスティ香港ハブ、韓国カトリック正平協、韓国NCC女性委員会、日本アムネ“慰安婦”チーム、全国行動、日本カトリック正平協、オール連帯、弁護士有志、wam、等々。

共通項は、“被害者頭ごしの日韓政府金銭決着”、“戦後70年と国交回復

50年の成果にこだわった拙速解決”、“少女像撤去”や“最終的不可逆的解決”は、歴史に刻むべき国家の大罪を抹消しようとする良心への挑戦”。つまり被害者不在の合意は解決にならないということです。

1/6、は「水曜デモ」が始って以来24周年目の抗議の“世界連帯行動”が13カ国、41都市で行われました(カナダ、米、英、仏、独、スイス、オーストリア、オーストラリア、ニュージーランド、台湾、韓国、日本各地でも)。私は小倉集会に参加、次のような意見も。「世界が納得できる絵がない。首相は韓国へ行き被害者の前で謝罪すべき」。台湾やマレーシアからも声が上がり、班監督の新作、中国慰安婦映画「太陽がほしい」も既に国内20カ所で上映。今年3月のアムネ総会時の訪問ツアーは「wam」(女性たちの戦争と平和資料館)です。

93才の金福童(キンボクトン)モニの言葉、「すべてはこれから始ります」。(2016.1.26 アムネ下関、山県)





「消費税と人権・平和を考える」を執筆頂いた安永税理士から、弁護士の大学一（だいがくはじめ）さんを紹介されました。81歳。1月中旬、お話を伺う機会があり、そこで中学卒業の大学さんが“そもそも弁護士をめざしたきっかけ”を話してくださいました。松川事件です。また原子力問題についても深い知識を持っておられることを知り、「共に生きるの読者に分かりやすく原子力問題を執筆してください」とお願ひしたところ、ご承諾頂きました。今回は大学一弁護士の自己紹介から。（編集部）

弁護士の大学一と申します。まず自己紹介します。

私は宮城県生まれです。中学校卒業後、石工になりました。当時、石工の手間賃が高く生活が安定すると思ったからです。以来4年半、毎日山の中で石を掘り加工する仕事をしていました。ある日のこと、久しぶりに町へ行き一軒だけある書店に入ると、私の目に止まった一冊の雑誌がありました。「前衛」というそれまで見たこともないもので、その中に「**松川事件**」のことが書いてありました。松川事件とは、1949年8月17日午前3時9分（現在の2時9分）に東北本線の金谷川駅と松川駅との中間の山中で、上り旅客列車が脱線転覆し、乗務員3人が死亡した事件。原因は何者かによって線路が破壊されたことによるもの。しかし線路を破壊した真犯人は未だに不明となっている。

この事件で、政府当局は、国鉄労組員10人と東芝松川工場の労組員10人を逮捕し起訴しました。

第一審の福島地裁は全員有罪（死刑5名含む）。仙台高裁は死刑4名を含む17名に有罪判決。最高裁では「諏訪メモ」という被告の無罪証拠が提出され、高裁へ差し戻し、高裁は全員無罪判決をしたのです。しかし検察官が控訴したため、最高裁で再度審理をし検察上告を棄却しました。

真実とは何か これが松川事件で問われたのです。みなさん、「真実」はこの世で「一つ」なのでしょうか、それとも「複数」あるのでしょうか。「真実」とは
 ①客観的に存在する「事実」と合致すること。
 ②科学的に証明され、承認されること。
 ③合理的に説明ができ、合理的に認められること。ほとんどの人が異議を述べない状態にあること。
 ④みんなが納得すること。納得できるものであること。
 ⑤社会生活の中で具体的妥当性をもたれ、もつことができるもの。

といわれています。そしてその「真実」はこの社会の中で1つだけ存在するのです。

しかし、支配者や権力者のいう真実は、自分の利益と合致するもの、自分の都合と合致するものを指し、ゆえ

に複数存在するのです。このことをしっかりと「つかみ」理解しておくことが大切だと思います。松川事件は、支配者・権力者と国民が闘って、国民が「完全勝利」を得た世界で唯一といってよいほどのものです。

私が書店で「前衛」を見つけたとき、この松川事件の裁判が進行し救援運動が盛り上がっていました。当時わたしは、警察官や検察官・裁判官のような人たちとは絶対間違いを起こす人たちではなく、神に近い人たちだと信じていました。それは戦中、そう教え込まれていたからです。しかし「前衛」を読み「どうもおかしい」と思うようになりました。友人にも相談し、「この前衛の記事をどう理解したらいいのか」と。そして友人と松川事件の現地調査をすることにしました。それは、このまま松川事件についての疑問を放置したまま、自分の考え方を解決しなかったら必ず後悔すると思ったからです。

友人の現地調査を終えた報告では、「どうも前衛に書いてあるのが真実であるように思える。しかし、二人の結論を出すには、もっと事件について勉強する必要があると思う」ということでした。そこで友人と私は、もっと松川事件のことを学習し、調査し納得できるように勉強しようとなりました。学ぶにつれ無実の人たちを「死刑にさせてはならない」との思いが高まっていったのです。

死刑は犯人の生命を奪う刑罰です。現在は「絞首して執行する」とあり、これは憲法36条の「残酷な刑罰」という主張もありますが、その主張に対し最高裁判所が反対しています。死刑存続を主張する人たちの意見はいろいろあるのですが、しかし理由はどうであれ、死刑は残酷で非人道的です。被害者の救済には役に立ったことはありません。しかも裁判には誤判が多く、誤判によって執行されたら全く取りかえしがつかないので。世界は死刑廃止の方向へ向っています。人間社会は人間の価値を最高とし、全ての人間が等しくその命を保護することを基本としていますから、どのような理由があろうとも人間が他の人間を殺害することとは矛盾するのです。

（来月から原子力発電所の問題についてです。）

雪だるま(F)

こちら(北九州)はめったに雪が積もりませんが、この前の朝、外を見ると薄らと道路が白くなっていました。お昼近く、公園で誰かが雪だるまを作っていました。うれしかったのでしょう。ただ、その雪だるまさんは、茶色(土よごれ)でしたけど。



私の正月(A)

普段、なかなか歩くチャンスがありますから、よしと、1月1日、元旦におよそ10キロをゆっくり歩きました。最後は足が…。それでも1月2日、今度はおよそ7キロがんばりました。これでよし。

3日目は、普段の私に。



ツイッター

アベる？ アベすぎる？ (瀬)

安倍首相の足元である下関で、小さな集まりがありました。ある方が「安倍首相の国会答弁を聞いていると、こちらまで恥ずかしくなります」と。それを聞いてシスターが、「近頃ネットで『アベる』って言葉が若い人たちの中ではやって(流行して)いるようです。その意味はね、『人の質問にまともに答えない』『人の話をきちんと聞かない』だそうです。」参加者一同、大爆笑でした。若者はこういう表現で、国会答弁を受けとめているんだと感激の一言でした。



人気の機関車トーマス (玲)

いま娘が出産のため帰省中。2才の孫も。食べる量は大人並み。おしゃべりも少しずつ覚えていきます。しかし、居間はおもちゃだらけで、毎日、毎日、機関車トーマスのDVDを見せられています。少しはニュースも見せてくれないかな。

旧伊藤伝右衛門邸拝見(田)

朝ドラが刺激となって、一度行ってみたいと思っていました。伊藤伝右衛門、白蓮の恋物語も少し興味が湧きましたし。さすが大富豪の屋敷だけあって、部屋がいくつもあり豪華。廊下もとっても長いです。説明ボランティアの方が「麻生さん(麻生太郎)のとこも、このようなもんです。」の一言に、やっぱり庶民の生活がわからない人だとつくづく思いました。この日は1月3日で、駐車場もまばら。拝見料はいくらかなと思いつつ、そのまま中へ。結局この日は無料でした。お年玉だったのかしら。」

年賀状に感謝

たくさんの方から賀状を頂きました。「共に生きるをいつもありがとうございます」「共に生きるをいただける幸せを思いつつ」「このミニコミ紙に会って世界が広がっています」「みなさんのユニークな活動に教えられます。」…励ましの言葉に感謝(編集部)

東日本の今

カリタス釜石の活動に参加して

高瀬 紀子

大寒波直前の1月12日~18日まで、カリタス釜石でのボランティア活動に參加しました。カリタス釜石の活動は多岐に渡っていますが、私は釜石教会内のお茶っここと3か所の地区仮設住宅でのお茶っこに訪問させていただきました。時間になると「部屋に一人でいるから、この日を楽しみにしているのよ～！」と笑顔で集まれ、すぐに顔なじみの輪が出来てきます。にぎやかなおしゃべりの中にも、ポツリポツリとあの日の事を語られる方々もいらっしゃいました。

釜石市は1114名の方々が犠牲となり、66か所の仮設住宅が建てられ震災時は3000世帯が入居されました。5年たった今でも2000世帯近くの方々が暮らしておられます。頼みの復興公営住宅の建築は遅れており、希望の住宅への入居を心待ちにされておられます。混乱した震災当初から、カリタス釜石は被災された方々の心の痛みを聴き「～よりそい～つなぐ～いのち」を大切に、釜石の方々を底辺から支え続けてこられていました。短い間でしたが、その積み重ねてこられた活動に触れさせていただき、本当の支援を教えていただきました。

歴史問題にみる日中関係

(2)

『慰安婦』に太陽を



作家・ドキュメンタリー映画監督
班 忠義さん

※文責／編集部

(連続6回)

たとえば、安倍政権の歴史観「美しい日本」。今平和な日本で、昔、(日本軍人が)こんなことをしたと言つても誰も信じませんね。戦争体験者も旧軍人も少なくなっているので、生の証言が聞こえてこないです。そうするところの歴史が消えてしまいます。これを「記憶の暗殺者」という人もいます。抹消する。抹消すればどうなります?繰返されるんですよ。

すこし前に、福山駅で修学旅行の中学生をみかけました。みんな神社に行つたんですね。どういうところに行つたのかな。安倍政権になつてやたらに日本の古い文化を大事にするというナショナリズムがありますけれども、そこにいつたら日本刀の展示があります。もちろんその国の伝統文化を大事にすることは素晴らしいし、反対することではありません。ただ日本文化の長い歴史の中で、いろいろな時期がありました。例えば平安時代は死刑制度が無かつたとのこと。平安時代の文化は中国から朝鮮を渡り、仏教の世界で:平和そのものですね。その後、武士階級になり、自分の命を守る武力信仰、「武士道」が。武士道という言葉は、中国の被害者からみればとても残忍でよい道ではありません。武士道をいいイメージになつたんですね。そんな気持ちがありました。中学生が修学旅行で原爆資料館にいったら、戦争は悲惨なものだと。もし中

国でこういう平頂山殉難同胞遺骨館を見学したら、なぜこんなもの見なければならぬかと。それは事実ですね。たぶんそれをみた若い人は「確かに昔、悪いことをやつた」が、ただ悪いことをしたのは先輩だと。ではなぜ70年前、80年前このような悲惨なことができたかといえば、人間に悪魔と天使の両方が心の中にあるからです。戦争時代の差別教育、日本は天皇の国で優秀な人種。中国はチャンコロ。朝鮮は劣等民族。五族共和といいますが、実は日本民族は、朝鮮民族、モンゴル民族、満州人、それから中国人に対し差別をずっとやつたんです。中国人を殺しても人間じやないから虐殺することができます。それが何なのか?間違つた教育のせいです。天皇制、そういうような教育、愛も慈しみも憐れみもない世界の中で起こつたんですね。その人たちが悪いというより、その人への教育、憎しみと悪魔の部分を拡大したんですね。戦後、その悪魔のような考え方を束縛したのが平和憲法ですね。それで戦後の日本人は平和貢献をしたり隣国に対し戦争とか武力で訴えないで理屈的に話し合う、これが戦後の日本です。

ところが戦後70年になり、その思いがなくなると、また「中国は軍事脅威だから、日本が危ない」と。そして昔の盧溝橋事件のように「邦人を守る」という、脅かされてもいいのにそういう口実と同じです。「平和」の名目で満州を植民地にした。いま「積極的平和主義」といいますが、ではいままで消極的だったのでしょうか。危機感を感じてしまいます。(続く)

編 集 後 記

語り部、裴東錄(ペ・トンノク)さんからDVDを頂いた。昨年5月に報道されたKBCニュース「在日2世が見た三池炭鉱」。ペさんは1,000回におよぶ平和交流授業を続け「絶対戦争したらダメ。仲良くするように」と子ども達に語りかけ、そして朝鮮人強制連行の真実を後世に残そうと活動を行っている。過去の歴史に蓋をせず、同じ気持ちを共有できる社会を、との思いから。私も筑豊(炭鉱労働と強制連行の足跡)を案内している資料を渡すと、気持ちはすぐにつながった。今度はペさんがご自分の資料を持ってきた。平和を大切にすれば“アンニヨンハセヨ”が生きてくる。(瀬下)